



六十年記念登山
岩手・八幡平山行

あだたら
山の会

●編集部連絡先
二本松市郭内1-5-5
0243(22) 渡辺正四
金日程並びに

Aで昼食。土曜日で混雑していた。午後0時二十分出発。花巻南ICで下り、高村山荘(高村光太郎記念館)に午後一時到着。入口に記念館があり、奥にヤマボウシ、栗の大木等木々に囲まれ、風情あふれるロケーションの中に高村山荘が併む。山荘は、屋根が杉の皮で葺かれ、柱や腰板は栗材。壁は土壁、床は土間であった。冬は大変であつたろうと思われ、光太郎の心情が偲ばれた。花巻南ICから東北道に再び上る。午後二時。道路沿いは、紅葉はまだ早いがナナカマドの実が赤く色づいていた。松尾八幡平ICを午後三時三十五分下りる。二十五分程山道を走り、松川温泉・松楓荘に午後四時到着。秘湯に相

九日午前五時頃 川の流れれる音と雨降る音で目が覚める。朝風呂に行く。昨晩は露天風呂には入っていないので、入ったが大変熱く、早々に内風呂に戻った。午前七時半より朝食。昼食用弁当とドリンクを頂き、名残惜しいが雨降る中、女将に見送られバスに乗車。午前八時二十五分出発。Aコース（茶臼岳登山口）、Bコース（黒谷地湿原登山口）、Cコース（八幡平頂上駐車場）の三コースがあり、最初はAコース、次Bコース、Cコースと登山口までバスで周り、私は、A



九十九

九月八日（土）曇 午前八時半、お城山駐車場集合。記念登山と懇親会を通して安達太良山の会創立六十周年記念を祝うと共に、更なる連帯感を深めることを趣旨に午前八時五十五分出発。東北道二本松 ICより午前十時菅生 SA で休憩。午前十一時三十分、前沢 SA で昼食、土曜日で混雑していた。午後〇時二十分出发。花巻南 IC で下り、高村山荘（高村光太郎記念館）に午後一時到着。入口に記

応しい建物の佇まいに感動する。玄関に行くと美人の若女将が出てくれた。七部屋に案内され、それぞれの部屋に分かれる。荷物を置いて先ず風呂に入つ

コースで降りる。学さん、

休憩し、会長の音頭で創立六十周年記念登頂の乾杯をする。その後山頂で昼食を定であったが、雨が強かったので、下山してレストハウスでることにした。午後一時四十五分レストハウス出発。午後二時四十分松尾八幡平ICより上り花巻へ。宮澤賢治記念館に午後四時到着。一時間程見学。しばし宮澤賢治の世界に没入する。午後五時二十分、花巻南ICより上り、二本松に後八時半到着した。遅かっただので、デニーズで夕食をし、城山駐車場に戻り、解散した。今回の創立六十周年記念岩手八幡平山行になつて綿密な企画を戴いた役員の皆様、運転手の青木会長、御芳志頂いた渡辺郎さん及び車田さん、そしてわざわざ埼玉より参加して下さった内田さん、本当にありがとうございました。皆さんに感謝し申します。

休憩し、会長の音頭で創立六十周年記念登頂の乾杯をする。その後山頂で昼食を定であったが、雨が強かったので、下山してレストハウスでることにした。午後一時四十五分レストハウス出発。午後二時四十分松尾八幡平ICより上り花義務へ。宮澤賢治記念館に午後四時到着。一時間程見学。しばし宮澤賢治の世界に没入する。午後五時二十分、花義務NICOより上り、二本松へ。

「黒谷地湿原から山頂へ」
予定より少し遅れ雨具を着けた人、着けない人、でバスに乗り、松楓荘を後に樹海ラインを八幡平へと。この程度の雨であってほしい。藤七温泉を車窓から眺めて、茶臼岳コース希望者は下車し、バスは折り返し、黒谷地口へ。九名でここから山頂へと。弱い雨はあるが気にならない。刈払いされた水量の多い小川の脇を進むと「熊の泉」があり、

▼ 日工大 佐藤 外加子
「黒谷地湿原から山頂へ

三本の管より流れ落ち、下
ップも付いてます。平坦な
木道を進むと広い黒谷地湿
原で、右へは茶臼岳。展望
所の建て替え工事中でし
た。まもなく、登りになり、
振り返り見たら、茶臼岳の山頂付近が見えました。平
坦になると安比岳への分
岐。ここで一息と思ったら、
雨が・・・そのまま進行。
穩やかに登ると草原。樹林
帯になる。唯一の登山者(女
性)に会う(監視員の方だと思
った)「滑りますので気を
付けて下さい」と声を掛け

ミ等が入つていて、他の山と違つてました。滑り止めでどうか？八幡平ガイドに鏡沼の「ドラゴンアイ」が人気とある。五月中旬から六月中旬（魔女の瞳のようない）。雨なのでお昼は山顶レストハウスの三階で、松楓荘手作りのねぎりを頂きました。塩味がきいて花巻へと向かいました。



られました。

源太森の案内がある。山頂はすぐです。見えます。樹林帯を抜けると湿原に。池塘も点在している。八幡沼に到着。左へ行くと湖畔に避難小屋「陵雲荘」が見えます。数戸の木造、瓦葺きの宿泊施設です。

ると八幡沼、ガマ沼、湿原を見渡せるデッキがある。草が両方から茂っている中を歩くと樹林に囲まれた何も見えない山頂。今の展望デッキは十五年くらい前に建て替えられています。風雨となり、しおぎながら全員との合流を待ちました。善雄さん提供のお酒で「祝否」記念撮影は「若いカツップル」(ちょっとだけ)にお願いしました。一六一三前の三角点を見なかったので残念です。春のお花畠、秋の江

葉、また各々からの遠くの山並みを思い浮かべ満足しました。木道は全体がキザ

名前を重ねる山行、一度
った山でなく、初めての山
を望む人（山つぶし）が
くなつて来ている様に思
れる。同じ山でも毎回違
顔を見せてくれる。私は
を楽しむのではなく、山
楽しむ一人である。

六十周年記念は、参加者
十八名と最近では会員の
分の一の参加、会山行で
最高の参加であると思う。
岩手県の松川温泉で六十二
年記念式典・懇親会翌
八幡平集中記念登山。三
コース九名、Cコース4名

右へ、湿原の中の木道を進む。湿原は草紅葉も始まる。山の紅葉も間近を思われる。陵雲荘避難所でトイレ。休憩（二十人位収容、暖房設備あり）。山頂へはBコース組が一番、十五～二十分遅れでAコース・Cコースが山頂へ。会長より挨拶。美酒でカンパイ、記念登山を祝う。記念写真を撮り、山。

八幡平駐車場レースハサスの片隅で全員で昼食後、帰路に付く。活気ある山会で七十・八十・百回と記念行事が出来る様、願っています。

各登山口から入山する。私はBコース、男二名・女七名、黒谷地登山口を出発。古い木道、足元に注意をし歩く。登山道の左・右一筋以上刈払いしてあるので、傘をさしても支障無い。熊の泉を過ぎると黒谷地の木造展望台に出る。古くなつたのか取り払われ新しい土台が建設されていた。雨も上がり少し木々の間から眺望も楽しむ事が出来たが安比岳コースからの合流点で小休憩。又雨となつた。お花畠の登りはリンド



A group of four hikers are standing at a trail junction in a forested area. From left to right: a man in a blue jacket and purple cap; a man in a yellow jacket and green cap; a woman in a pink jacket and red cap; and a woman in a green jacket and grey cap who is crouching. They are positioned around a wooden post with directional signs.

A group of about ten people are gathered at a bus stop in a park-like setting. In the center, a woman in a yellow shirt and blue jeans stands facing another woman in a striped shirt and dark pants. To the left, a man in a white shirt and dark pants is looking down at something in his hands. To the right, a man in a white polo shirt and orange cap stands with his hands in his pockets. The background features a red wooden building with a green roof, surrounded by trees and a parking lot.

9日9時52分、葵白岳山頂

8日13時4分、高村光太郎記念館入り口

▼青春の在りし日々を懐かしく振り返った。

本多信治

福島には京駒できなかつたからです。今も変わらない偏屈な男なので、当時教授の命令には従うことが出来なかつた。北に向かう自分が悲しく反省しながらの門出でした。仙台を過ぎ岩手県に入れる頃から、田んぼのあぜ道には白雪が残つてゐた。盛岡に着く頃は田畑にも雪があり、馬そりで農作業をする姿が印象に残つた。盛岡から花輪線に乗り、大更から松尾鉢山の軽便鉄道に乗り換えた。電車は岩手山の東から北・西へ曲がり、雪の野原を奥羽山脈に向かつて走つた。終点の屋敷台に着いた。駅前には除雪して雪の山があり、「何と言ふ所に来たんだ」とつづくと乗つた。バスは雪の回路を曲がりくねつてエンスト

のスキーリフト三機が物を載せて山を登っていた。

目的地は千メートルの高地にあり、約三十分でバスの終点に着いた時、ツンとした亜硫酸ガスの匂いで思わず息を止めた記憶がある。松尾鉱山は東洋一の規模を誇る鉱山と聞いていたので、納得した。道路の両側には除雪の雪の山、黒く汚れていた。バスから降りて鉱山病院に向かった。驚いたことに道路は車だけではなく、人はモグラの様に屋根のかかった通路で各家に連絡していた。東洋一の硫黄鉱山なので、社員の住宅はハーモニカ長屋と、四階建てのコンクリート造りのアパート群があった。病院は小高い丘の上にあり、岩手山が目の前に聳えていた。病院の玄関は雪圍いで暗く、大変なところで働く事になつたと内心うんざりした。

翌日から仕事が始まつた。朝は八時から、午後は四時には寮に帰つた。娛樂は映画館があるだけで、ただ当然で見ることが出来た。食堂で飲み会を行つことがあった。土曜日は半ドン、盛岡に出掛ける習慣になっていた。病院の回りは馬が多く放牧されていた。勉強もせず時間を持て余し白樺林を散歩したりしたが、現在の様に熊さんの出没はなかつた。

私は雪が消えた六月からは茶臼から玉川温泉まで日帰りで駆け回り、黒谷地のリンドウには感激したものです。岩手山にも四、五回は登ったが、初冬で新雪を踏み山顶で写してもらつた。写真は懐かしい。冬になると寮の隣はスキー場、初めてスキーに乗り、子ども達に「おじさんもっと上から滑つたら」と励まされて滑れるようになつた。寮では窓までに雪が積もり、火災などで逃げるため雪かきは欠かさなかつた。松尾にはジャンプ台もあり、国体選手も練習に来ていたし、大学生の合宿も行われていた。そんな時、女優の八千草薫さんが来て滑つたと聞き、一緒に写真を取つて自慢げにしていた方も居た。私はこの地松尾鶯山で一年間お世話になり、五月にはやつと教授の許しを得て福島医大病院に就職できた。その後、松尾鶯山は閉山となり、ハーモニカ長屋が消防庁の実験で焼失した。コンクリート造りのアパートは当時のままだが、人影はなく危険なので立ち入りは出来ない。鶯山病院は、学習院大学の寮として使われたが、数年前解体され、昔の面影はなかつた。今回の山行では、美しい片富士岩手山の姿はガスの中だったが、思い出の多いリンドウに再会できて嬉しかった。

湯川渓谷、三咲

道整備作業
報告 編集部



7時47分 塩沢登山口出発 参加者はカメラ含めて5名

湯川渓谷三階滝周辺で、
登山道整備作業を実施し
た。三階滝滝壺廻りの灌木
繁茂が酷く登山道を見つけ
られないとの報告が寄せら
れたためだ。当日滝壺手前
まで降りたが、本来の登山
道は立木で遮られ、迂回す
るよう高巻き道が付けら
れていた。このルート昨年
九月にハシゴ交換作業を実
施しておりそのときは通過
に何の支障もなかった。今

湯川渓谷・三階滝周り登山道整備作業報告
編集作



一番奥のテープは「はしご」、
手前のテープ右側が
三階滻「下の滻」の滻臺



沢に下りたところに付けた案内テープ
上らずに、沢に添って進む。

言う事は無いと思われる。参加者は屏風岩まで登つて昼食。下山しながら登山道に張り出した笹の刈払い、倒木の処理を行つた。午後二時過ぎには全員無事に塩沢登山口に下山した。登山道ではヤマボウシが赤い実

を付けている、サワフタヤギ
も紫の実を付けている、林
の中では「ナギナタタケ」
がキノコとは思えない細い
姿を見せている。紅葉はま
だだが氣を付ければ植物
たちの元気に出会える。